

# Monthly Report

Vol.61 / 2011 May.

## 平成23年度 体育学部・大学院 入学式



朴沢学園の創立記念日である5月6日に「平成23年度 第45回体育学部・第14回大学院入学式」を執り行いました。未曾有の大震災により、約1ヶ月遅れての入学式となりましたが、体育学部647名（体育学科385名、健康福祉学科101名、運動栄養学科82名、スポーツ情報マスタイア学科41名、現代武道学科38名）、編入生10名（体育学科4名、健康福祉学科4名、運動栄養学科2名）、大学院18名（内、留学生8名）の新入生を迎えることができました。

理事長・学長告示では「仙台大学は、人類社会を形成する「人間」そのものについて、スポーツを典型的な場面とする身体活動や身体機能の面から、これを「学びの対象」としています。入学された皆さんには、「自らのために」だけではなく、津波の犠牲となった先輩達も含め、常に、全世界において共に主体的に取り組んでいる若い世代の一員として、当事者全体のためという自覚を持って、仙台大学での学生生活を大事に過ごして頂きたい。」と述べられました。

入学生代表宣誓では、今年度新しく開設した現代武道学科の水野寛仁さん(福島県立白河旭高校卒)が「この災害を体験した私たちの行動が、今、正に問われる時です。千年に一度とも言われる未曾有の大災害という困難を乗り越え、私たちは新しい仲間たちと共に、体育・スポーツ、健康に関わる諸科学を探究し、これからの時代の担い手となるよう身体を鍛え、教養を深め、心を磨き、豊かな学生生活を送るよう努力して参ります」と宣誓しました。

### 目次

平成23年度入学式	1
第5体育館が完成	3
デンマーク国民学校だより	4
国際交流	6
体育施設管理士認定証 永年勤続者表彰	7
東日本震災関連 医療・健康サポート	8
オリンピックで悲願のメダル 獲得を	12
学生の活躍	14

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら  
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関  
にも旬な話題を提供していきたいと考えて  
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、  
広報室までご一報ください。

#### 広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email:kouhou@scn.ac.jp

## 入学式の様子



## 運動栄養サポート研究会考案 お弁当配布

今年も入学式で運動栄養サポート研究会の学生が考案したお弁当  
おい  
(美味(おい)美味SHI-BATAはなまる弁当)  
を配布し、大変好評でした。



## 大学院オリエンテーション(懇親会)

入学式後、15時30分より学生食堂において大学院のオリエンテーション(歓迎会)が開催され、大学院の新入生・2年生および朴澤学長、丸山研究科長をはじめとする大学院関係教職員が出席しました。大学院生全員がそれぞれ挨拶し、陸上・やり投げの佐藤寛大さんは「私は本気でロンドンオリンピック(2012年開催)出場を狙っています。実現させるために大学院でやり投げについての動作研究をしていき自己ベストの大幅更新を狙います」と力強く述べました。佐藤さんは先月行われた世界選手権代表選考会日本グランプリシリーズ第1戦で第2位となっており、活躍が期待されています。



## 第5体育館が完成



震災の影響により完成が遅れていた第5体育館の建設工事が終了し、5月16日（月）に鹿島建設㈱より大学に引渡されました。この体育館はバレーボールコートとバスケットボールコートと3面同時）できるアリーナと、3階建ての研究棟を有しています。本学で最大のスペースを持った体育館となり、入学式や卒業式など大きな行事での利用が期待されています。なお、第5体育館脇で整備しているテニスコートは6月中旬に完了する予定です。

### <アリーナ>



格納可能な観客席240席と天井や壁面に情報収集のためのカメラ設置が可能。ボタン1つで演台・スクリーンの格納が可能で、音響設備も整っている。なお、研究棟の2F、3Fからもアリーナ内が一望できる。

### <研究棟>



エントランスホールとGTセンター



ロッカールーム



シャワールーム



大会議室



教室



演習室

### <その他>



玄関に設置している模型とInformationボードにも第5体育館が追加されました。

## デンマーク国民学校(小・中学校)だより ①

准教授 高橋まゆみ

東日本大震災から2か月が過ぎましたが、デンマークから、お亡くなりになられた方々にお悔やみを申し上げ、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

3月14日(月)の朝、教育研究のために毎日通うオーデンセのプライマリースクール(小・中学校)に到着すると、校長先生はじめ教師たちから日本の家族、仙台大学の教職員・学生の安否を問われました。デンマークに滞在して7か月を過ぎたこの日、日本で一体何が起きているのかと非常に心配しながら迎えた9年生(日本の中学3年生)の英語の授業。生徒たちは一様に“I am sorry! I am very sad!”と悲しい顔で日本のことを心配していました。そして、日本で起きた大震災の様子について生徒たちと話し合い、このクラスの生徒全員が日本の子供たちのことや学校のことを心配しながら、英文で震災見舞いのメッセージを書いてくれました。その中からのお見舞い文を紹介します。

Dear student of Japan.

I am sad to see the catastrophe that has stricken your country. It is sadness me to see all the suffering. I can't possibly imagine what you are going through. I hope that you will come out of this situation stronger and healthier, both as a person bad also as nation. I hope for a better future, for you, and the people around you.

Love, Christian F. Rasmussen

### <北欧の子供と学校>

北欧の冬は鉛色の空が覆い、昨年11月頃から今年3月下旬頃までほとんど太陽を見ることがありません。例年のない寒さと雪の多かったデンマークの冬は長く感じました。しかし、デンマークの学校の子供たちは元気に自転車に通学してきます。低学年の子供たちは、親に教室まで送られながら登校します。いったん学校に入ると温かい雰囲気が待っているので、少々寒くても目をキラキラ輝かせてやってくる子供が多いという印象です。あたりはまだ暗くマイナス10度の気温の中、朝7時30分から始業時刻8時までの30分間、校長先生は正門前に立ち、子供たち一人一人に“God morgen.(グッモーニング)”と挨拶し笑顔で迎えます。

この学校は、童話作家ハンス・クリスチャン・アンデルセンの生誕地オーデンセ市内にある

プライマリースクールの一つで、生徒数およそ700人の中規模校です。日本の小、中学校にあたる年齢の子供たちが同じ建物の中で学んでいます。日本の学校と違うのは「0学年クラス」「10学年クラス」があることです。デンマークの教育制度は、0学年～10学年まで用意されています。0学年は6歳児のクラスで幼稚園クラスとも呼ばれ、義務教育です。デンマークでは「義務教育」ではなく「教育の義務」と呼ばれます。1学年生は日本の小学生と一緒に7歳児です。0学年で学校に慣れてから1学年を迎えますが、学校に慣れない児童は0学年でもう一年過ごすこともできます。9学年生は日本の中学3年生にあたりますが、9年生を終える段階で学力不足、または社会(高校進学と職業別専門学校)に出るのに情緒的に不安で幼さがあると判断した場合には、10学年生で、もう一年勉強して社会に出るための力を準備することができます。デンマークでは、高等学校も職業別専門学校も日本に比べ大人として扱われる学校なので、担当教員は生徒と何度も面接をして生徒の現状と可能性を判断するため、特に2月～3月は本当に忙しい時期になります。教育の特徴は一クラス28人編成、教師と生徒の間での対話形式による授業展開で積極的に質問できる雰囲気があります。



ロースンゴー国民学校の9年生

## デンマーク国民学校(小・中学校)だより ②

准教授 高橋まゆみ



### <子供の教育とアンデルセン童話>

皆さんはアンデルセンの童話を一度は子供の頃頃読んだことでしょうか。「みにくいあひるの子」「マッチ売りの少女」などは日本でよく知られていますね。

学校でも家庭でも、アンデルセン童話を読み聞かせる場面を多く見かけます。童話を通して、人との付き合い方や助け合って生きることの大切さを学んでいきます。

また、第8週(2月21日～27日)は、デンマークの学校は冬休みとなるので親に伴われて南の国へと出かける子供も多いようです。アンデルセンは「旅は人生なり」という言葉を残しました。この言葉を小さい子供の頃から耳にしてきた子供たちは、親と旅に出る機会を多く持つことを大切に、学校の授業だけでは学べない自然環境や社会生活などについても冬休みなどの休み期間を利用して学びます。

### <子供のからだ作りと自然教育>

積もった雪も消え4月になると「復活祭」の連休が1週間ほどあり、この時期にも人々は南の国へ出かけることがよくあります。復活祭を見計らい、待ち焦がれていた木々の芽が一斉に吹き出すのです。太陽が顔を出す日も多くなり子供たちの顔も明るく輝きだします。

授業も屋外での時間が増えてきます。特に低学年の子供たちは、屋外で学べるよう授業が配慮され、幼稚園の場合は、森の中で木々や草花に触れて遊びます。屋外に出る前に体育館で平均台などを使い体のバランス感覚を体で覚えさせ、その後



フォレストスポーツ幼稚園における2歳児のアクティビティ

実際に森林の中に入って冬に倒れた木の上を歩いたり、倒れかかった一本の木をロープを使って倒し、枝葉を切り落とす作業(プロジェクト)をしたりと自然環境の中での実践教育を徹底しているのが分かります。

5月に入ると森の緑もより鮮やかになり、春の陽光を照り返しながら大きな風車が回転しています。原子力発電設備が皆無なデンマークは全消費

電力の約20%を風力で発電しています。デンマークは2050年までに全電力をグリーンエネルギー(風、太陽、地熱等)で賄う計画でいます。9年生の物理・生物・化学を総合した授業では、急ぎょテーマを変更し、今回の日本の原子力発電の様子を教師が説明しながら、生徒たちは原子力発電のメカニズムとそのリスクについて学びました。

### <卒業試験の意味>

卒業試験は、デンマークの国民学校法に定める内容をクリアできたかどうかを確認する試験です。デンマークの義務教育(教育の義務)は、保護者と協力して、この国に必要な国民を作る教育をすることから「国民学校」(フォルケスコレ)と呼ばれます。

生徒たちは、5月～6月上旬にかけて、教科の試験、他校の教員の前でのプレゼンテーション(口頭試問)を行います。生徒は複数の学校と複数の教員による公平な試験をクリアし、卒業パーティに参加するのを楽しみにクラスメートと仲良く勉強しています。試験期間といっても生徒たちはむしろ楽しそうな表情で、先日、私の担当した9年生のクラスの女子生徒も私を見かけると英語で話しながら、ちょっとしたコミュニケーションを交わします。コミュニケーション能力や他の国や文化とどのように協力してうまくやっていくかなどが問われる試験です。生徒たちが街に出ても日々実践的に学んでいるのが印象的です。

今回は、自然の中で生き生きと学ぶ国民学校の子供たちを通して、デンマーク便りをお送りいたしました。



デンマークの風景 左: 菜の花畑、右: 風車

## 瀋陽師範大学創立60周年記念式典に朴澤学長が出席



5月21日(土)に瀋陽師範大学(中国)で創立60周年記念式典が大々的に執り行われ、朴澤学長と同大学卒で講師も勤めている馬助教が招かれ出席しました。瀋陽師範大学と本学は平成20年5月に国際交流協定を締結し、互いの大学で学生が学んでいます。



## 台東大学と「国際交流促進に関する合意書」締結



5月13日(金)に、佐藤滋学長補佐、佐藤幹男教授、藤原徹准教授の3名が台東大学を訪問し、「仙台大学と台東大学の国際交流促進に関する合意書」の締結を行いました。台東大学と本学は2006年に国際交流協定を締結し、学生の交換留学や教員交流を行っています。同日に佐藤学長補佐が東日本大震災の被害についての講演を行ないましたが、津波や原子力発電所について関心が強いようで、聴講者から数多くの質疑が出されました。

## タイ王国シーナカリンウィロート大学からの留学生

5月11日(水)国際交流提携大学のタイ王国シーナカリンウィロート大学から交換留学生2名が挨拶のため学長室を訪れました。

2人は9月末までの半年間、学部の科目等履修生として授業を受講する予定です。大学内で見かけた際は、是非お声掛けください。

左 Ms.Maneenoot Kanantai (マネーノート・カンタイ)  
右 Mr. Theerasuwat Watanasak (テーラスワト・ワタナサク)



## 台東大学から日本の復興を願った千羽鶴

本学が国際交流協定を締結している台東大学から日本の復興を願い、千羽鶴を頂戴しました。これは、2月28日～3月28日に、同大学に短期留学していた永井希（体育学科4年）が帰国する際に黄先生から「日本の復興とみなさんの安全を願っています」という言葉とともに託されたものです。日本での長期留学経験をお持ちの黄榛芬先生が、日本の伝統文化である折り紙を同大学の幼児教育学系で学ぶ学生とともに日本の復興を願って丁寧に折り上げてくださいました。海外からのお心遣いに変感謝いたします。

千羽鶴は学生支援室ボランティアセンターに飾られていますので、ご覧ください。



## 第5回 仙台大学体育施設管理士認定証授与式



5月25日（水）A棟大会議室において体育施設管理士認定証授与式が執り行われ、朴澤学長より合格者70名へ認定証が手渡されました。

体育施設管理士資格とは、体育施設の維持管理や運営に必要な知識技能の習得と体育スポーツの振興に寄与する「指導者」の養成を目的とし、

（財）日本体育施設協会から付与されている資格です。

本学においても文科省が打ち出した学校校庭の芝生化を見据え、第二グラウンドに天然芝を植栽し、ラグビー部、アメリカンフットボール部などのサークル活動で使用するとともに芝の維持管理をすすめているところです。今年度後期の授業からも、新たに「スポーツターフ管理概論Ⅰ・Ⅱ」を開講し授業を通じた教育・研究活動へのあらたな取組が企画されています。

授与式では、学長から「体育施設管理士は在学中に取得できる資格であることから、教員や指導者をめざす皆さんにとっても有用な資格のひとつです。社会に出る前に得た専門知識を活かした芝の管理など、学内アルバイトなどのしくみを徐々に整えていきたい。」と期待を込め話されました。

## 永年勤続者表彰



5月11日（水）に法人事務局において永年勤続者表彰式が執り行われました。

この表彰は、本学園に教職員として25年在職した方へ贈られるもので、今年は庶務課の伊藤弘行課長と予算管理課の只野健一課長の2名に表彰状と記念品が贈られました。

※写真提供 法人事務局財務課 日野職員

## 女川町・美里町での医療・健康サポート



健康づくり運動サポーターは毎週木曜日、女川町と美里町の避難所を巡回し、エコノミークラス症候群予防のための活動を実施しています。5月19日には医師の橋本教授、看護師の鈴木職員（健康管理センター）、健康づくり運動サポーターの岩垂新助手と伊藤良平さん、小熊理恵さん（共に体育学科4年）の5名が避難所を訪れました。

はじめに東松島町の被災者を受け入れている美里町の南郷体育館を訪問。ここでは医師でもある橋本教授と看護師の鈴木職員が避難者の血圧を測定。体の不調を訴える方には塗布薬の処方も行っています。健康づくり運動サポーターは体育館中央のスペースに希望者を集めて運動指導を行いました。学生が来るのを毎回楽しみにしてくれている方もおり、会話を楽しみながら30分程度、軽運動で体を動かしました。その後、女川町の避難所2箇所でも活動を行いました。



### 活動に参加した伊藤良平さん（体育学科4年）



今回の震災で献身的に活動する自衛官の姿を見て、自分も困っている方々の力になりたいと思い、自衛官へ進路を変更しました。健康サポート活動に参加しているのも、自分の行動が少しでも被災者の健康や笑顔の源になってくれればと思うからです。実際に活動すると、逆に被災者の方々から力を与えられている気がします。今後も自分が出れる範囲で被災者を支援していきたいです。

### 女川町役場職員 佐藤誠一さん（11回生）



女川町の職員には私を含めて4名の仙台大学卒業生が在職しています。今回、女川町の津波被害は甚大でしたが、自衛隊や災害ボランティアの方々の協力にたいへん感謝しています。仙台大学も女川町や他の被災地で活動していることはたいへん感心しています。仙台大学卒業生4名は頑張っていますので、皆さんによりよくお伝えください。

### 美里町社会福祉協議会の浅野恵美さん 平成20年度春季仙台大学シニアカレッジ受講生

橋本教授には仙台大学で行っている美里町の高齢者を対象とした健康教室「みさと元気塾」で8年間ほどお世話になっています。またレクリエーション協会の方で仲野教授や小池教授にも永年お世話になっています。このご縁で仙台大学の先生・学生の方々に来ていただくことが出来て大変感謝しています。



### 「イケメンズ」も活動に参加



5月26日の活動には、宮城県を拠点に音楽活動をしているバンド「イケメンズ」同行し、体操を一緒に行ったほか、歌も披露していただきました。これは、

健康づくり運動サポーターの活動撮影を委託しているTBCビジョンを介して、イケメンズから「仙台大学の方と一緒に避難所を回り、自分たちに出来ることを何かしてあげたい」という申し出があって実現したものです。イケメンズのプログでも紹介されています。↓↓↓

<http://blog.livedoor.jp/yohei8828/archives/51670075.html>

<http://blog.livedoor.jp/yohei8828/archives/51670207.html>



## 地震で被害のあった施設がほぼ復旧

震災で被害のあった学内施設の改修工事が着々と進み、温水プール以外の施設は使用可能となりました。色テープが貼ってあるA・B・D・F・E棟の壁面タイルは土台から浮いている箇所ですので、大きな余震が来た際にはご注意ください。



<タイルの破損・うねり>



<敷地複数個所のアスファルト割れ>



<自動販売機前の陥没>



第2体育館



第1体育館



A棟南側入り口

## (株)神戸製鋼所様より、支援物資を頂戴しました

5月7日（土曜日）、(株)神戸製鋼所にご勤務されている、本学OB 門脇 好幸さん(平成元年卒19回生)が、朴澤学長の元を訪れ支援物資の軍手とマスクを手渡されました。本学から派遣しています、教職員・学生の災害ボランティア活動を実施します際に有意義に使用させていただきます。ご支援ありがとうございました。



## 震災見舞いのための視察

### 文部科学省からの視察



5月18日(水)に文部科学省スポーツ・青少年局スポーツ振興課と高等教育局私学部私学助成課が

来訪しました。被害のあった施設を視察されたほか、スポーツ・青少年スポーツ振興課の方々には「スポーツによる復旧・復興プラン」策定のために宮城県内の学校やスポーツクラブ、避難所等を現地視察しており、その工程で被害地の中にある唯一の体育大学である本学にも立ち寄られ、本学教員との意見交換も実施されました。

私学助成課の方々への対応は法人事務局の齋常務理事がされ、本学の被災学を含めた被災状況を報告。被災学生に対する授業料減免等の取り組みを説明しました。被害の説明と意見交換を行ったほか、震災により被害のあった各施設を視察しました。

### 日本私立大学協会の小出秀文事務局長が来訪



4月30日(土)に日本私立大学協会の小出秀文事務局長が来訪し、東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)における本学の被害状況を視察されました。なお、今回の訪問に際して日本私立大学協会から義援金100万円を頂戴しました。ご支援に感謝いたします。

### 日本私立学校振興・共済事業団の河田悌一理事長が来訪



4月25日(月)に日本私立学校振興・共済事業団の河田悌一理事長が来訪し、東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)における本学の被害状況を視察されました。この時期は修繕工事の最中で、鹿島建設担当者の説明を受けながら体育館や室内プールなどの主要施設の被害状況を視察されました。

### 3.11津波被害で部活動の練習場が確保できない石巻市立大須中学校に体育館を貸出



宮城県で屈指のバレーボール強豪校であり、3.11津波被害により部活動の練習環境が確保できない石巻市立大須中学校が本学で部活動を行いました。

大須中学校は全校生徒21名と少数で、元々自前の体育館がなく、普段は校庭や近くにある大須小学校体育館を使用し練習を行っています。そのような環境下でも同校はバレーボールで毎年好成績を収めており、「生徒が少なく、体育館がなくても強い中学校」として県内でも有名です。しかし、3.11の津波被害により練習を行っていた大須小学校体育館が避難所となり、練習は校庭でしかできない状況となりました。石巻地区大会が迫っているにもかかわらず体育館での練習ができないということで、同校より佐伯教授を介し施設借用の申し出がありました。本学でも出来るだけバックアップしようと、坂根生涯学習センター長が統括して、女子バレーボール部の鈴木清和監督と男・女バレーボール部員、バドミントン部の永田秀隆監督と部員が練習相手を務め、第5体育館を使って同中学校バレーボール部（男子10名）と第1体育館を使ってバドミントン部（女子11名）を指導しました。昼食は運動栄養学科が計84人分の昼食を作り、パワーポイントを使って「疲労回復に適した食事」のミニ講座も開催しました。



#### 阿部祐樹くん（大須中学校3年）

バレーボール部は3年生7名、2年生3名です。普段は中学生同士の練習なので、大学生の指導を受けて練習することができ、大変充実した練習会になりました。やはり体育館での練習はケガを恐れずボールを追えるので楽しいです。石巻地区の大会は6月25日からはじまるので、今回教えてもらったことを実践し、優勝できるようにチーム一丸となって頑張ります。

※6月4、5日には高校体育連盟主催の体操・新体操競技のインターハイ予選会場として第3体育館5Fと第4体育館2F、練習会場として第2体育館も一部使用します。高校生が多数、大学構内に立ち入りますのでご承知おきください。



### 名取市中学校体育連盟の陸上競技大会



5月21日（土）に本学の陸上競技場で名取市中体連陸上競技大会が開催されました。これは、震災の影響で会場の確保に苦慮されていた名取市中学校体育連盟（会長：みどり台中学校 荒井龍弥校長→本学教授で3年間出向中）の要請で、本学陸上競技場での開催となりました。大会運営には藤井（邦）教授、横川教授、陸上競技部員が携わり、大会運営を支えました。

## オリンピックで悲願のメダル獲得を 体操の植松鉦治選手、柔道の田中美衣選手に応援旗



2012年に開催されるロンドンオリンピックに向けて各競技で代表選手選考会が始まりました。過去のオリンピックにおいて、本学卒業生のメダル獲得はなく、最高成績は2004年アテネ夏季オリンピック陸上競技1600mリレーに出場した佐藤光浩さんの4位入賞に留まっています。大学としてもオリンピックでのメダル獲得は悲願です。そこで、朴澤学長の提案によりロンドンオリンピック出場の可能性があり、出場すればメダル獲得の可能性が非常に高い、体操の植松鉦治選手（コナミ）と柔道の田中美衣選手（了徳寺学園職員）に対して大学から応援旗を送りました。「ロンドンオリンピック代表の座を勝ち取れ」と書いた国旗に学生・教職員・入学式参列者から寄せ書きを集めたものです。

なお、ロンドンオリンピック出場にはボートのの大元英照選手（アイリスオーヤマ）や陸上競技やり投げの佐藤寛大選手（仙台大学院1年）にも大きな可能性があります。

### 過去の夏季オリンピック出場者（本学OB）

- 2000年シドニー五輪  
小原 工選手      トライアスロン
- 2004年アテネ五輪  
佐藤光浩選手      陸上競技1600mリレー

教員では、

- 岡村輝一准教授  
1972年ミュンヘン五輪      男子団体金メダル
- 小西裕之准教授  
1988年ソウル五輪          男子団体銅メダル
- 阿部 肇 准教授      1984年ロサンゼルス五輪  
舵手つきフォア8位入賞

- 1988年ソウル五輪          男子エイト9位
- 1992年バルセロナ五輪      男子エイト13位

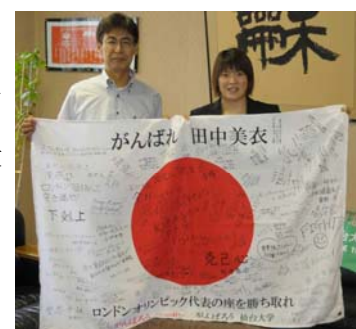
5月17日（火）には大学を代表して新助手の鈴木良太体操競技部監督が植松選手のもとを訪れ、直接応援旗を手渡しました。植松選手は5月の練習の際に右膝前十字靭帯を断裂しましたが20日に手術を受け、リハビリに入っています。体操競技もオリンピック選手選考会は既に始まっておりませんが、植松選手はこれまで積み重ねてきた大きな実績があるため、特例で選手選考会に出場することができる可能性があります。



5月20日（金）には田中選手が来学し、海外出張で不在の朴澤学長に代わり佐藤滋学長補佐から応援旗が手渡されました。

「世界選手権選考会では自分が勝って後輩たちを元気づけたかったが敗れてしまった。被災地から応援してくれる方々のためにも結果で恩返ししたい。柔道の選手選考は来年5月の全日本選抜体重別選手権。ロンドン五輪代表になるためには絶対に負けられない」

田中さんは今年から了徳寺学園大学職員、現役を引退した時に高校・大学の職員となるため筑波大学大学院1年に進学しています。



## アメリカにサッカー留学中の本多純子さんが一時帰国



女子サッカー部OGの本多純子さん（平成21年度卒）が一時帰国し、学生の練習に参加しています。本多さんは現在、米国のLaramie Country Community College（ラミー・カウンティ・コミュニティ・カレッジ）という2年制公立ジュニアスクールにスポーツ特待生として所属し、プレーしています。

「小学2年生からサッカーを始め、中学時代は3年間、東北選抜に選ばれ聖和学園高校に進学しました。仙台大学でも女子サッカー同好会に所属。しかし、当時は、初心者が大半で勝てるチームではありませんでした。そんな女子サッカー同好会に黒澤尚監督が2年生の時に就任し、チーム力は急速に上昇しました。経験者も年々集まり、翌年には同好会から部に昇格。4年次には東北地区で連覇を続けてきた山形大学と対等に戦えるチームとなっていました。この年、僅差でインカレ出場を成し遂げられませんでした。その翌

年、後輩たちが東北大会初制覇（インカレ出場）を成し遂げたと連絡をもらい、自分のことのように喜んだのを覚えています。

アメリカに行くきっかけとなったのは、「海外女子サッカーツアー」に参加したこと。このツアーは毎年企画され、米国で現地のサッカーチームと親善試合を行うもの。自分にとってこのツアーに参加すること自体がチャレンジでしたが、このツアー中に現地の大学監督から「うちでプレーしてみないか」との誘いを頂きました。このことを機に、女子サッカー世界ランク1位の米国でサッカーと向き合いたいと思うようになりました。米国でプレーできるのは2年間で、9月から2年目のシーズンに入ります。選手としてプレーするのは今シーズン限りと自分で決めたので、悔いを残さないプレーを心がけ、後輩たちに教え伝えられることをたくさん得たいと考えています。そして、日本に戻ったら指導者としての道を進みたいと考えています。指導者ライセンスも今以上の資格に挑戦したく、できれば仙台大学でコーチが出来たら最高です。

後輩に向けて・・・

私が4年生の時の1年生が3年生となり、たくましく、雰囲気も大人っぽくなりました。チームの選手層も厚くなり、インカレでも勝利できる力をつけてきています。後輩たちには、自分たちのサッカーに自信を持って全力でプレーすることと、逃げずにたくさんの方にチャレンジすることを期待しています。

## 平成23年度 ジュニア新体操教室開校式



5月25日（水）第4体育館において平成23年度ジュニア新体操教室開校式が開催されました。今年は震災の影響により1ヶ月遅れの開催となりました。開校式には大山部長、丹羽講師、事業戦略室の菊地課長が出席し受講生約80名の参加となりました。

開校式後には1回目の練習が行なわれ、楽しみな

ながら柔軟体操やリズム遊びがおこなわれました。また、練習を行なった後には今年の震災を教訓に、大きな地震に備えての避難訓練、保護者への引渡し訓練が行なわれました。新体操部学生の誘導のもと子どもたちが第4体育館から噴水前に集合し、点呼が行なわれ無事保護者への引渡しがなされました。



ジュニア新体操教室は、本学が地域貢献として平成6年からスタートし、毎年約100名の児童生徒が丹羽講師と新体操競技部の学生から毎週水曜日に新体操の演技指導を受けています。約6ヶ月の練習期間を経て、12月18日（日）に今年度の開催を予定している新体操演技発表会で華やかな演技を披露することを目標に毎週たのしく練習に励んでいます。

## 漕艇部／ボートの花形種目「エイト」で3位表彰台

～Japan Cup第33回全日本軽量級選手権大会～



漕艇部が5月20－22日に埼玉県戸田ボートコースで行われた「Japan Cup第33回全日本軽量級選手権大会」において4種目で入賞を果たしました。ボートの花形種目である男子エイトでは3位に入り、全日本インカレに向けての弾みとなったようです。

### 【結果】

男子エイト	第3位
男子ダブルスカル	第6位
女子シングルスカル	第4位
女子ダブルスカル	第6位

## 佐々木健さん(体育学科4年)のラップが配信



KICK-O-MANという名で音楽活動を行っている佐々木健さん(体育学科4年／和音同好会)がラッパー仲間<sup>たける</sup>の楽団ひとりと共に東日本大震災を歌った曲『NORTH EAST COMPLEX part3.11』が4月27日からネット配信され、話題となっています。

佐々木さんの自宅も津波により全壊。本震から被災地の現状を歌詞にしたためていたそうです。そんな折、知り合いを介して東京のレコード会社から「曲を配信してみないか」との声をかけていただき、電気も復旧されていない3月24日に石巻市内でボイスレコーダーへの録音アカペラで行われました。後に曲がつけられ4月27日に配信される運びに。「テレビ等で報道される内容は、被災者は地獄のような生活をしており、今後の生活を不安に思い途方にくれているなど、ネガティブ

な内容ばかりだった。実際は被災地にも笑顔はあったし、未来を見据え前を向こうとしていた。報道がネガティブな内容になるのは多少は仕方ないが、被災地の実際を皆に伝えたかった」と、話します。曲の後半は英語の歌詞となっていますが、これは海外の友人たちに伝えたかったメッセージだそうです。

佐々木さんはフィンランドカヤーンニ応用科学大学への短期留学を経験したあと、語学に磨きをかけたいと1年間語学留学しました。

「留学中知り合った海外の友人たちが日本のために募金活動をしたり、食料を送ってくれたりと心配して電話をかけてきてくれた。世界中から大きな勇気もらった。そんな友人たちに自分たちは前を向いて歩んでいることを伝えたかった。」

と、話してくれました。

販売はコストをかけないためCD販売はせず、ネット配信(1曲150円/iTunes store/OTOTOY/Amazon/HIPHOP DL)のみ。5月8日からはプロモーションビデオも配信されている。ボイスレコーダーにアカペラで録音した時の様子はYOUTUBEでも配信されている。